

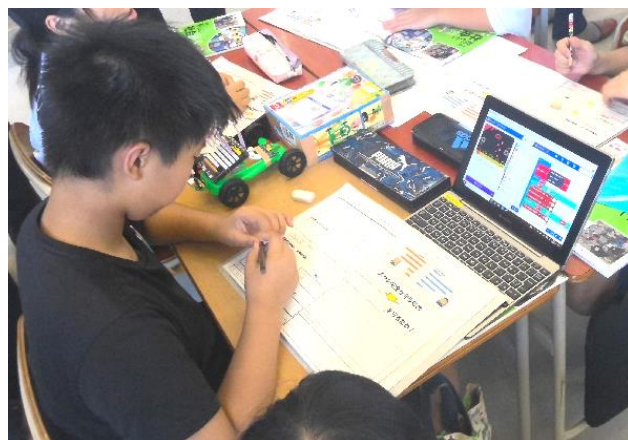
9月17日(火)唐津市立切木小学校において、「佐賀県教育委員会研究指定事業 小学校プログラミング教育」の研究発表会が行われました。切木小学校では、学習内容とプログラミング的思考の関連を図ることを研究の中心に据えた取組を行っています。第5学年社会科「わたしたちの生活と工業生産 ②自動車をつくる工業」の授業が公開され、教育用マイコンボードのmicro:bitを活用し、社会科の学びをより確実にする児童の姿が見られました。

筋道を立てて、自ら課題を解決し、表現する児童の育成 ～プログラミング的思考を育む授業づくりを通して～

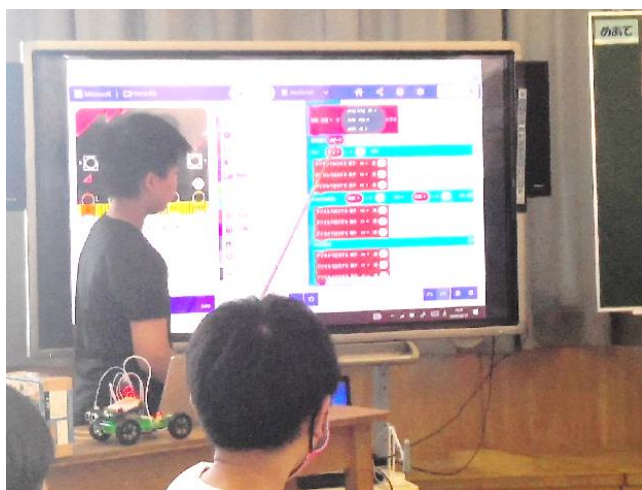
切木小学校



本時のめあてと見通しについて確認する児童と納所教諭



実装した機能とプログラムの確認を行う児童



プログラムの工夫について説明する児童



デモカーに実装したプログラムを実演する児童

社会科「自動車をつくる工業」5年生

山頂 (学習目標) 自動車の生産について学んだことをパンフレットにして、児童集会で発表しよう。

<p>分かること・できること</p> <p>① 自動車づくりの過程、工場見学について、技術者としての考えや職人の仕事や努力を理解することができる。</p> <p>② 消費者の望みや社会の動きに応えるよう生産者の工夫や努力を理解することができる。</p>	<p>考えること・感じること</p> <p>① 自動車づくりの過程、工場見学の様子や、技術について、分からないことや疑問に感じたことを解決して、みんなに伝えることができる。</p> <p>② 消費者の立場と生産者の立場に立って、自動車生産について考える、理解できる。</p>	<p>くふうして学びたいとすること</p> <p>① 自動車の生産について学習した内容を、学習計画を立てたりすることができる。また、学習の振り返りや学習の成果をまとめることができる。</p> <p>② 学習した内容を基として、自動車づくりの良さやパンフレットづくりに取り組むことができる。</p>
--	---	--

自動車のパンフレットができた!

学習問題1: これからの自動車には、どのようなことが求められるのだろうか。

学習問題2: 自動車は、どのようにしてつくられているのだろうか。

土田 (くふうする学習)

いろいろな車種は注目ですが、その土曜の朝もよりに開催されているお祭りやお祭りを企画している。車を運転する人たちは、最寄駅まで行くために様々な工夫や努力をしている。工業は、日本全国に広がっている。愛知県は、中央工業地帯といわれ、機械工業の割合が高く生産額も全国1位だ。

ラーニング・マウンテン

「ラーニング・マウンテン」に示された学びの目的や見通し、ゴール等を意識しながら学習を進める児童の姿が見られました。プログラムの動きやよさ、情報技術によって情報社会が支えられていることに気付くことができていました。

次号は、三田川小学校、嘉瀬小学校の研究発表会の様子を紹介します。



学力向上対策検証・改善委員会が開催されました（8/26）

8月26日に佐賀県学力向上対策検証・改善委員会が開催され、佐賀大学の松尾敏実教授を委員長として、学習状況調査の結果の検証等に基づいた学力向上対策の改善・充実を図るために、意見交換が行われました。

委員会における主な意見

- ・若手教員が増加しているため、まずは授業づくりのスタンダードから確認する必要がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる子どもは、家庭の本の冊数に関わらず、正答率が高い傾向にある（国立教育政策研究所の分析結果より）。
- ・思考力・判断力・表現力の育成については、教科の中での指導だけでなく、学校教育全体の中で自分の考えを表現する取組等を行っていく必要がある。
- ・教員が細かく指導しすぎてはいないか。子どもに考えさせるべきことを教師が説明していないか。
- ・子どもの考える力を育むためには、子どもが思いや考えを表現することを「待つ」大人の姿勢や関わりが必要である。家庭でも、子どもとの対話が大切である。



県教育委員会からの説明の様子



意見交換の様子

今後の重点取組

委員会でもいただいた意見を基にチェックシート（資料）を発出しています。全職員で普段の授業を振り返り、今後の授業改善に生かしましょう。

「質の高い」話し合う活動の実現に向けた、3つのチェックシート！

チェック1 子どもに話し合う必然性をもたせていますか？

- 話し合う活動を何のためにしているのか、子どもにその意味や目的が伝わっていますか？
- ノートに書いた自分の考えを伝え合うだけの活動になっていませんか？



チェック2 対話が生まれる聞き手を育てていますか？

- 子どもの発言に対して、みんなが「いいと思います」といつも同じ反応をしていませんか？
- 子どもの発言に対して「私の考えは少し違います。わけは～」という子どもの反応はありますか？子ども同士の対話はありますか？



チェック3 心理的安全性を高める働きかけをしていますか？

- いつも同じ子どもが発言していませんか？必要以上に間違いを恐れる子どもがいたりしませんか？
- 間違った考えを言っても受け入れられる「心理的安全性」が学級の中にありますか？



学年や学年部会、校内研修会など、先生方みんなで実践やアイデアを出し合って2学期の実践につなげましょう。